

今回は、前号に引き続き、8月18日(金)～22日(火)に台湾において実施した「美祢市ふるさと人財育成事業」市民海外研修(後半)の様子について紹介します。

研修3日目午後は、台湾新幹線で台北市内に移動し、国立故宮博物院を視察しました。

## 【国立故宮博物院】

世界4大博物館にも名を連ねる国立故宮博物院には、およそ70万点近くの収蔵品があるとされており、常時6,000～8,000点の収蔵品が展示されています。特に有名な収蔵品数百点を除いては3～6か月おきに展示品を入れ替えているため、すべてを見て回るには10年以上かかるとされています。

今回は、現地ガイドさんの詳しい案内を聞きながら、歴代王朝によって受け継がれてきた至極の秘宝の数々を視察しました。

研修4日目は、十分(じゅっぴん)での天燈飛ばし体験、映画の舞台となった九份(きゅうふん)、美祢市と観光・学術面の交流をしている野柳地質公園を視察しました。

これらの地域は台湾でも特に雨の多い地域で、当日も降水確率70%。終日、屋外での体験が大半のため、天候を心配していました。

ところが、バス移動中は雨が降っていたにもかかわらず、現地に着くと不思議と青空が広がり、無事すべての体験を行うことができ、研修生の日頃の行いの良さが伺えました。

## 【十分での天燈飛ばし体験】

現地は、台湾人以外にも日本人をはじめ多くの外国人観光客で賑わっていて、研修生2人で1つの天燈(ランタン)の4面にそれぞれの願い事を書き、熱気球の要領で天燈内部に実際に火をつけ、天燈飛ばし体験を行いました。

この天燈飛ばし体験は、気候条件などから、台湾でもこの地域だけ特別に認められているとのことでした。



## 【九份】

かつては、9戸だけの小さな集落で、買い出しのたびに9戸分の物品を調達していたことから、この地名が付けられたとされています。

戦前は金鉱の街として栄えたものの、廃坑後は衰退の一途を辿りましたが、台湾の映画の舞台となったことで、再び脚光を浴びるようになり、現在では多くの観光客が訪れ、商店街は活気に満ち溢れています。

研修生は、ここで昼食を摂り、商店街で現地のスイーツにも挑戦していました。



## 【野柳地質公園】

野柳地質公園は、台湾北部の北海岸沿いに位置し、ユネスコの世界ジオパーク理念に基づき活動しておられ、教育・観光・レジャー機能を兼ね備えた新しい形の観光スポットになっており、毎年国内外から多くの観光客が訪れています。

平成26年2月15日に(一社)美祢市観光協会が、野柳地質公園の運営管理者である新空間国際有限公司と「観光交流・学術交流促進に関する協定」を締結し、相互交流を行っています。

研修生は、秋吉台とは違う地質で形成された奇岩の数々にとても驚いていて、現地ガイドの説明を聞きながら、熱心にメモを取ったり、奇岩を写真に収めていました。





日中の蒸し暑い中での現地研修でしたが、野柳側からマンゴーシャーベットの差し入れをいただき、ここでも台湾の心温まるおもてなしを受け、とても喜んでいました。

研修最終日（5日目）は、午前中に忠烈祠（ちゅうれつし）での衛兵交代式を視察しました。

#### 【忠烈祠の衛兵交代式】

日本の統治時代には護国神社があった場所で、国民党政権時代に現在の忠烈祠となりました。ここには、辛亥革命や抗日戦争などで命を落とした軍人の英霊が祀られており、毎日9時～17時の間、1時間ごとに衛兵交代式が行われていて、多数の観光客が訪れていました。

一糸乱れぬ衛兵交代を目の当たりにし、研修生はとても感心した様子で見入っていました。



また、日本にはない徴兵制度についても、ガイドさんや留学生に質問していました。

今回の研修を通して、参加した生徒たちは、台湾の文化や生活様式を知る中で、現地の皆さんの心温まるおもてなしや優しさを受け、台湾の良さを肌で感じると同時に、海外に出て改めて日本やふるさと美祿市の良さがわかったようです。

研修中は、わからないことがあれば積極的に質問し、その内容をメモに取ったり、写真に収めたりと熱心に研修している生徒たちの姿が印象的で、とても有意義な研修でした。



また、滞在期間中は、天候に恵まれる一方、とても蒸し暑い中での研修となりましたが、体調を崩すことなく、全員元気に帰国することができました。

研修生は、今後、各学校の文化祭でこの研修の様子を発表されることですので、自分たちが実際に現地で見たり体験し感じたことを多くの人たちにしっかりと伝え、今後の人生に活かしてほしいと思います。